

宝の浜海水浴場

白い浜が美しく、海岸線の長さは約400メートルあります。シャワー室やトイレも備えられた人気の海水浴場で、夏はバーベキューを楽しむ人も多く見られます。



星鹿城山

1191年、源頼朝の命でこの地に下向した加藤左衛門重氏がこの地に刈萱城を築き、その後城を棄てて紀州高野山に移ったと伝えられています。山頂には本丸の輪郭が残っており、展望所からはスケールの大きな眺望が楽しめます。



松浦市民休養地

松浦市民の避暑地として親しまれており、柚木川内キャンプ場や澄み切った冷たい水が約7mの落差で流れ落ちる「龍王の滝」などがあります。森林浴や散歩に最適です。



梶谷城跡

松浦市今福町の今福城山頂にある中世山城で、松浦氏の居城であったといわれています。平安末期頃に築城され、山頂を楕円形に削り本丸を築き、北側に二の丸、南側に物見台を設けています。山頂へ登ると360度の展望が広がります。



松浦水軍の兜

松浦市は中世に活躍した水軍「松浦党」発祥の地。海を望む調川道路公園の高台には、松浦水軍の兜をモチーフにした巨大なモニュメントがあり、撮影スポットとしてはもちろん、ドライブの休憩所として利用されています。



道の駅松浦 海のふるさと館

松浦魚市場で水揚げされた鮮魚や地元の水産加工品、農産物、お土産品などを販売するほか、敷地内には芝生が広がる多目的広場や漁村体験学習施設などがあります。

つたえるけん
松浦市

伊万里湾に浮かぶ青島で素潜り漁を営みながら、島の魅力を発信しています。

今月のつたえるひと **谷 浩介**さん
大阪府出身。29歳まで大阪でサラリーマンとして働くが、以前から「海のそばで暮らしたい」という思いがあり、妻の実家がある長崎県で移住先を探し、2017年に松浦市青島に移住。



船を購入し漁師として独立 家族も島の暮らしを満喫中

大阪で民間企業の営業職として働いていましたが、妻の実家がある新上五島町を訪れた時に「海のそばで暮らしたい」という気持ちが強くなり、妻と相談して、移住することを決意しました。仕事に漁師を選んだのは、海のそばで生活できるということと、「若手が少ないからこそやってみたい」という思いがあったからです。

移住先を探す中で松浦市の漁協から紹介していただいたのが、御厨港からフェリーで20分の青島です。青島の漁師さんはとても優しく、丁寧に教えてくれる方ばかりで、また、都会にはないのんびりとした空気に触れ、子育てをするにも良い環境だと思いました。

移住して最初の2年は漁師の見習いとして、養殖や定置網、たこつぼ、刺網、潜りなどの仕事を経験し、自分の船を2隻準備した上で2019年7月に独立しました。1隻は不要になった小型船を無料で、もう1隻は中古のエンジン付きの船を安価で、どちらも地元の方から譲っていただきました。そのうち一隻は妻の名前にちなんで「いろは丸」と名付けました。現在、行っている漁の種類は素潜り漁で、青島沖でアワビやサザエ、

松浦市のお土産

旬さば缶詰

10月～2月に五島・対馬海峡で取れるサバのうち400g以上のものを「旬さば」と認定。肉厚で濃厚なうま味が味わえる腹身だけを缶詰にしているため、一匹から一缶だけ。贈り物にも最適です。



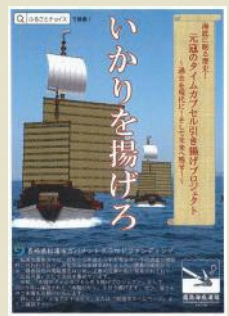
問合せ/まつうら観光物産協会 ☎0956-76-8822

表紙のはなし 『松浦鉄道』

地元では「MR」の愛称で親しまれている松浦鉄道。佐世保駅から佐賀県有田までの路線を走るローカル列車です。特に松浦市周辺は車窓からの眺望が素晴らしく、沿線には桜や菜の花の名所もあります。

「木製いかり」引き揚げプロジェクト、目標達成!

松浦市鷹島沖では、鷹島海底遺跡の調査を開始して40周年を迎えました。これまでに2隻の元軍の船が発見され、「元寇の島」として国内外から注目を集めています。松浦市では、「木製いかり」の引き揚げプロジェクトとしてクラウドファンディングを実施し、めでたく目標額を達成しました。今年秋の引き揚げを目標に準備を進めています。



松浦市の観光情報サイト
「松浦のうみ・ひと・まちに恋」

まつうら観光物産協会が運営するウェブサイト「松浦のうみ・ひと・まちに恋」は、観光地や体験施設、イベント、食事処、宿泊施設など、松浦市の魅力が盛りだくさん。特産品のネットショッピングもできます。



ナマコなどを捕っています。漁にも慣れてきて、良いときで1日にアワビ50個、サザエ500個ほどを捕れるようになります。先日は20センチ以上の大物のアワビも捕ることができました。水揚げしたものは、地元の新星鹿漁協に出荷するほか、最近ではインターネットでも販売しています。新鮮な水産物をお届けすることで、「青島についても知っていただきたい」と思っています。

青島は、住む人も自然も素晴らしい場所です。もうすぐ3人目の子供が生まれますが、近所付き合いも楽しく、家族みんなで島の暮らしをとっても気に入っています。漁業の担い手の減少で、漁村がなくなる可能性が大きくなっていく中で、私も微力ながら存続に貢献したいと思っています。漁の技術も磨いて、早く先輩の漁師さんに追いつけるように頑張ります。